

「中国泥質沿岸域の底質動力学」ワークショップ 概要

「中国泥質沿岸域の底質動力学」ワークショップが、2009年9月5日～7日の3日間に中国南西部の桂林で開催されました。桂林は独特なカルスト地形で世界的に有名な場所です。会議には、中国より約50名、オーストラリアおよびインドより3名が参加しました。

本ワークショップの主催は中国国家海洋局第2海洋研究所(The State Key Laboratory of Satellite Ocean Environmental Dynamics, China)であり、沿岸域における陸域-海域相互作用研究計画(The Land-Ocean Interactions in the Coastal Zone: LOICZ)および国際エメックスセンター(The International Center for the Environmental Management of Enclosed Coastal Seas: EMECS)が共催しました。ワークショップには、LOICZ科学運営委員会(Scientific Steering Committee: SSC)および国際エメックスセンター科学政策委員会(Scientific & Policy Committee: SPC)の委員であるエリック ウォランスキー教授および陳中原教授の2名が出席しました。

発表は次の5テーマで行われました。

1. 観測法および測定装置の開発、2. 堆積過程のモデリング、3. 底泥の流動と挙動、4. 生物地球化学的プロセスにおける堆積物効果、5. 生態学的および社会経済学的インパクト

ウォランスキー教授は「微細堆積物の動力学およびその影響に関する物理学-生物学連携の進歩」について基調発表を行い、「LOICZによって開発された泥質河口域の栄養塩に関する新しい収支解析法」についても発表しました。陳教授は「ナイルデルタと長江河口における重金属と生態的健全性のパターン比較」について発表し、中国の大河口域の環境状態は、最近の人為的活動や気候変動による多大な影響により、著しく悪化していると警告しました。

その後、河口と湿地帯の社会経済的価値や中国における統合的沿岸管理の役割など、LOICZとEMECSに関連した対象や考え方について議論がなされました。この問題に関しては、協力しあえる研究者のネットワークが構築され、様々な国際的、地域的団体に対し、中国の泥質大河口域の動力学と生態的健全性の研究への資金を求めることが計画されています。

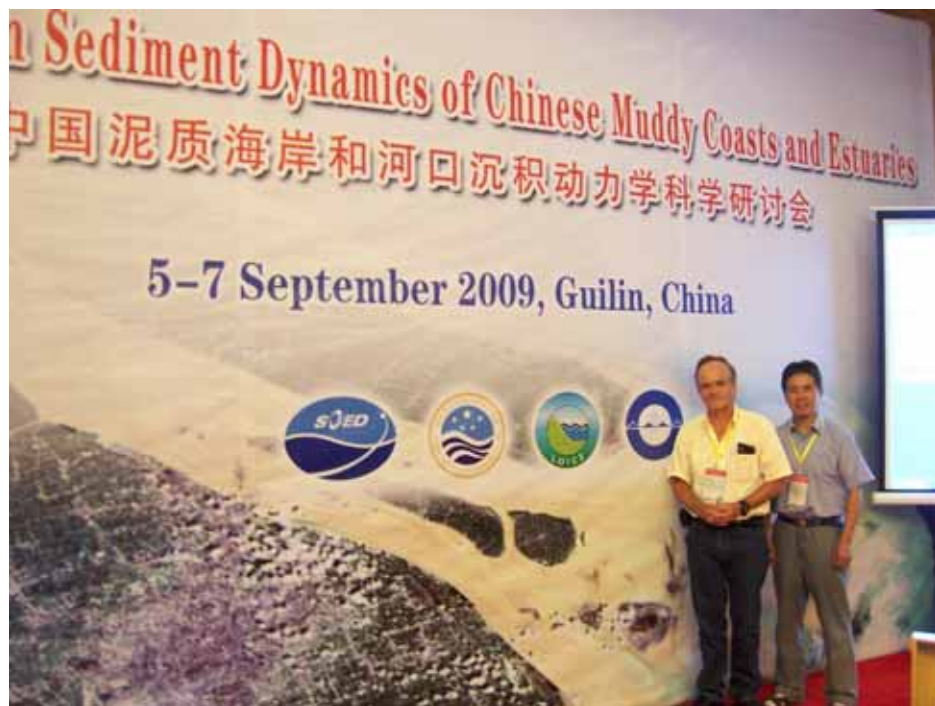


写真 ワークショップに出席したエリック ウォランスキー教授(左)と陳中原教授(右)